

令和7年度

学校評価の結果と分析

第1回 7月実施

第2回 12月実施

松山市立東中学校

### 【今年度の実施の流れ】

- (1) 第1回学校評価の実施（1学期末）
- (2) 第1回学校評価の結果の分析と教職員への周知、2学期以降の方向性の検討（夏休み職員会議）
- (3) 第1回学校づくり推進協議会の実施（9月下旬）
- (4) 第2回学校評価の実施（2学期末）
- (5) 第1、2回学校評価の結果の分析と教職員への周知（1月職員会議）
- (6) 全教職員で「学校評価から見える教育活動の成果と課題、今後の方策」について検討（2月）
- (7) (6)の集約と職員会議での周知及び修正（2月職員会議）
- (8) 第2回学校づくり推進協議会の実施（2月下旬）
- (9) 令和7年度の学校評価のまとめ（3月初旬）、松山市教育委員会へ報告
- (10) HPに学校評価の結果と考察について掲載・公表（3月上旬）

### 【第1回学校評価実施状況】

- (1) アンケート実施期間及び実施方法

生徒：7月8日（火）（Microsoft Forms）

保護者：7月4日（金）～7月17日（木）（Microsoft Forms）

教職員：7月4日（金）～7月14日（月）（教職員向けグループウェアミライムアンケート）

- (2) アンケート回収率

	生徒	保護者（家庭数）	教職員（校長除く）
対象人数（人）	276	255	27
回答人数（人）	240	157	27
回答率（％）	87. 4	61. 6	100. 0

### 【第2回学校評価実施状況】

- (1) アンケート実施期間及び実施方法

生徒：12月15日（月）（Microsoft Forms）

保護者：12月15日（月）～12月25日（木）（Microsoft Forms）

教職員：12月15日（月）～12月19日（金）（教職員向けグループウェアミライムアンケート）

- (2) アンケート回収率

	生徒	保護者（家庭数）	教職員（校長除く）
対象人数（人）	277	256	27
回答人数（人）	234	154	27
回答率（％）	84. 4	60. 2	100. 0

### 【評価の数値】

4：よくあてはまる	3：あてはまる
2：あまりあてはまらない	1：あてはまらない
0：分からない	

・「4」及び「3」を肯定的回答として集計

・全回答数から「0」を除いた数を有効回答数として肯定的回答率を算出

## 令和7年度 学校評価の結果と分析(肯定的回答率の変容)

増減の記号 増[△+3、△△+5、△△△+10] 減[▼-3、▼▼-5、▼▼▼-10]

【評価指数①】	対象	肯定的回答率				◆重点課題 ○方策
		第1回	第2回	変容		
学校は、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	生徒	89.5 %	93.8 %	+4.3	△	◆大変良好な状態である。生徒の肯定的回答率が上昇している要因として、各教科等での積極的な授業改善や、「ヒガシカタイム」の充実した実施等により、生徒同士の学び合い活動が増加し、「共に学ぶ喜び」を感じる生徒の増加につながったことが考えられる。 ○引き続き、個別最適な学びや協働的な学びの実現に向け、授業改善を重ねるとともに、学校ホームページや東中だより等を活用して更なる発信に努める。
	保護者	95.4 %	94.8 %	-0.6		
	教員	100 %	100 %	0.0		
【評価指数②】	対象	肯定的回答率				◆重点課題 ○方策
		第1回	第2回	変容		
学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	生徒	92.2 %	94.3 %	+2.1		◆大変良好な状態である。情報機器の普及、タブレット端末を活用した授業実践により生徒、保護者ともに肯定回答率が上がったと考える。 ○引き続き、アナログとデジタルの二者択一ではなく、教科の目標の達成に向けて、それぞれのよさを生かした授業改善を推進するとともに、研修の機会を活用し、デジタルの活用法についての理解を深める。
	保護者	97.1 %	97.8 %	+0.7		
	教員	96.3 %	96.2 %	-0.1		
【評価指数③】	対象	肯定的回答率				◆重点課題 ○方策
		第1回	第2回	変容		
学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	生徒	91.2 %	95.6 %	+4.4	△	◆大変良好な状態である。生徒、保護者では肯定的回答率が上昇している。日々の授業において、生徒自身の振り返りと教師からのフィードバックの充実を図っていることが、功を奏していると考えられる。全国や県の学力に関する調査においても、いずれも各教科平均を上回っており、実感的な評価につながっている。一方で、教員の意識や取組の格差の改善を図る必要がある。 ○引き続き、指導と評価の一体化による授業改善と個に応じた指導の充実を図る。
	保護者	91.0 %	94.0 %	+3.0	△	
	教員	100 %	96.2 %	-3.8	▼	
【評価指数④】	対象	肯定的回答率				◆重点課題 ○方策
		第1回	第2回	変容		
学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	生徒	86.5 %	89.6 %	+3.1	△	◆良好な状態である。生徒、保護者、教員ともに肯定率が上昇している。総合的な学習の時間等で、外部講師による講座、地域での防災に関する調査、マイロード活動、職場体験学習などの活動が充実したこと、また、学校ホームページの頻繁な更新により学校の教育活動を保護者が知ることができていることがこの結果につながったと考える。 ○引き続き、本校の魅力化を図るとともに、教育活動の成果を丁寧に発信する。
	保護者	93.0 %	95.3 %	+2.3		
	教員	92.6 %	100 %	+7.4	△△	
【評価指数⑤】	対象	肯定的回答率				◆重点課題 ○方策
		第1回	第2回	変容		
学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	生徒	88.4 %	91.9 %	+3.5	△	◆良好な状態である。生徒による評価が上昇しており、支持的風土を育てる学年・学級経営の取組や、「学校を明るくする調査」等で明らかとなった事案を丁寧に解決してきた取組が功を奏していると考えられる。 ○引き続き、教員自身も人権感覚を磨いていくとともに、「学校を明るくする調査」や「ふれあい相談」を丁寧に実施し、保護者との連絡を密に行う。
	保護者	94.1 %	93.8 %	-0.3		
	教員	100 %	100 %	0.0		

## 令和7年度 学校評価の結果と分析(肯定的回答率の変容)

増減の記号 増[△+3、△△+5、△△△+10] 減[▼-3、▼▼-5、▼▼▼-10]

【評価指数⑥】	対象	肯定的回答率			変容	◆重点課題 ○方策
		第1回	第2回	変容		
学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	生徒	88.0 %	91.3 %	+3.3	△	◆良好な状態である。校則検討委員会の実施を通して、きまりの意義を見つめ直したり、合議的な意思決定による変更が実現したりしたことが、実感的な評価につながったと考えられる。 ○引き続き、生徒の実態に即した適切な指導ときまりの見直しを図る。また、校則検討委員会に向けた話合いの充実を図り、自律や自治の意識を高めていく。
	保護者	89.7 %	91.5 %	+1.8		
	教員	100 %	100 %	0.0		
【評価指数⑦】	対象	肯定的回答率			変容	◆重点課題 ○方策
		第1回	第2回	変容		
学校は、将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	生徒	96.2 %	96.7 %	+0.5		◆良好な状態である。生徒、保護者ともに肯定的回答率が上昇している。学年を問わず参加できる進路説明会の実施等、早い段階で高校の情報を得る機会があることや総合的な学習の時間等におけるキャリア教育の充実が功を奏していると考えられる。 ○これまでの取組をさらに充実させるとともに、学校全体でキャリア教育を強化し、進路や入試に関する情報も、保護者へ積極的に発信していく。
	保護者	83.6 %	86.4 %	+2.8		
	教員	100.0 %	96.2 %	-3.8	▼	
【評価指数⑧】	対象	肯定的回答率			変容	◆重点課題 ○方策
		第1回	第2回	変容		
学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	生徒	96.4 %	98.2 %	+1.8		◆大変良好な状態である。定期的なマナーアップ運動や下校指導の見守りを行うとともに、安全点検の実施による危険個所の早期発見と早期改善を行ってきたことが高い評価につながっていると考えられる。下校態度の乱れが気になる場面もあるため、継続的な指導と見守りが必要である。 ○これまでの取組を継続するとともに、通学路の危険箇所の把握に努め、機会をとらえて校区内巡視を行う。
	保護者	93.8 %	96.3 %	+2.5		
	教員	100 %	100 %	0.0		
【評価指数⑨】	対象	肯定的回答率			変容	◆重点課題 ○方策
		第1回	第2回	変容		
学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	生徒	95.8 %	95.9 %	+0.1		◆大変良好な状態である。学級での健康観察、tetoruを活用した保護者からの情報共有が適切に行われており、緊急の場合にも、学級担任や養護教諭による家庭への丁寧な連絡が行われている。養護教諭が発行する保健だより、保健委員会の日常的な活動なども、高評価につながっていると考えられる。 ○今後も引き続き、家庭との連携を図るとともに、情報発信や委員会活動を活発にする。
	保護者	95.0 %	97.8 %	+2.8		
	教員	96 %	100 %	+3.7	△	
【評価指数⑩】	対象	肯定的回答率			変容	◆重点課題 ○方策
		第1回	第2回	変容		
学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	生徒	93.5 %	94.8 %	+1.3		◆大変良好な状態であるが、保護者の肯定的回答率がやや低下している。感染症対策に対する生徒への意識づけと確実な実施が一層望まれていると考えられる。 ○学年や全校で集まる際には、マスクの着用やうがい、手洗いの実施などを促し、各学年・学級で状況を見届ける必要がある。保健委員会の生徒を中心に、休み時間の教室換気をしたり、アルコール消毒を呼びかけたりするなど、感染予防の取組を強化する。
	保護者	97.1 %	93.7 %	-3.4	▼	
	教員	96.3 %	96.3 %	0.0		

## 令和7年度 学校評価の結果と分析(肯定的回答率の変容)

増減の記号 増[△+3、△△+5、△△△+10] 減[▼-3、▼▼-5、▼▼▼-10]

【評価指数⑪】	対象	肯定的回答率			変容	◆重点課題 ○方策
		第1回	第2回			
学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	生徒	92.5 %	93.6 %	+1.1		◆良好な状態である。ひとり一人の個性や思いが尊重されていると実感する生徒が増加している一方で、保護者の肯定的回答率はやや低下している。 ○生徒や保護者の不信につながる言動を厳に慎むとともに、本校で実施している特別支援教育の視点に沿った取組が、保護者によく伝わるよう、ホームページやtetoruの活用等により発信していく。
	保護者	93.0 %	90.5 %	-2.5		
	教員	100.0 %	100 %	0.0		
【評価指数⑫】	対象	肯定的回答率			変容	◆重点課題 ○方策
学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	生徒	93.6 %	96.8 %	+3.2		
	保護者	94.1 %	95.2 %	+1.1		
	教員	96 %	100 %	+3.7	△	
【評価指数⑬】	対象	肯定的回答率			変容	◆重点課題 ○方策
学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に取り組んでいる。	生徒	93.8 %	96.8 %	+3.0		
	保護者	93.5 %	91.5 %	-2.0		
	教員	100 %	100 %	0.0		
【評価指数⑭】	対象	肯定的回答率			変容	◆重点課題 ○方策
学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	生徒	93.4 %	93.2 %	-0.2		
	保護者	93.6 %	97.0 %	+3.4	△	
	教員	100 %	100 %	0.0		
【評価指数⑮】	対象	肯定的回答率			変容	◆重点課題 ○方策
学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システムにより、積極的に情報を発信している。	生徒	97.6 %	99.0 %	+1.4		
	保護者	98.1 %	96.7 %	-1.4		
	教員	100.0 %	96.3 %	-3.7	▼	

## 令和7年度 学校評価の結果と分析(肯定的回答率の変容)

増減の記号 増[△+3、△△+5、△△△+10] 減[▼-3、▼▼-5、▼▼▼-10]

【評価指数⑬】	対 象	肯定的回答率			◆重点課題 ○方策	
		第1回	第2回	変 容		
学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	生 徒	95.0 %	97.6 %	+2.6		◆大変良好な状態である。言語活動については、各教科の授業だけでなく、人間関係力向上プログラムの継続的な実施など、伝え合う活動を多く取り入れた教育活動が評価されている。また、正門付近の掲示板の手書きメッセージは、保護者や地域の方々からも好評を得ている。教室掲示や、廊下の各種ポスター、生徒作品、季節の貼り物、学年掲示など、多くの人の手で環境整備ができています。 ○学校全体で、今年度の取組を発展的に継続していく。
	保 護 者	94.2 %	97.0 %	+2.8		
	教 員	100 %	100 %	0.0		
【評価指数⑭】	対 象	肯定的回答率			◆重点課題 ○方策	
		第1回	第2回	変 容		
学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	生 徒	86.7 %	90.9 %	+4.2	△	◆良好な状態であるが、保護者、生徒の肯定的回答率が上昇しているのに対し、教員の肯定的回答率は大幅に低下している。 ○本校は、松山市幼保小中連携推進事業の研究推進校であり、合同研修等を通して連携が密に図られている。研修等で得た学びを日々の授業づくりに生かすためにも、すべての教員が年間を通じた取組の意義を共有し、理解を深めていけるよう、機会をとらえて啓発する。
	保 護 者	90.8 %	94.5 %	+3.7	△	
	教 員	96.3 %	87.5 %	-8.8	▼▼	
【評価指数⑮】	対 象	肯定的回答率			◆重点課題 ○方策	
		第1回	第2回	変 容		
学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	生 徒	92.6 %	95.3 %	+2.7		◆良好な状態であるが、生徒の肯定的回答率が上昇しているのに対し、保護者、教員の肯定的回答率が大幅に減少している。 ○連携の内容と成果を、ホームページ等で定期的に発信するとともに、生徒理解や学習の系統性に関する情報を全教職員で共有できる体制を整える。特別支援学級の生徒については、福祉・医療等との連携も行っているため、その実践等を通常学級の教員に伝える機会を作る。
	保 護 者	93.8 %	88.0 %	-5.8	▼▼	
	教 員	100 %	92.3 %	-7.7	▼▼	